

# 協働の「地域づくり大学校」 ～ 修了生の活動事例 ～



令和3年6月

各区地域力推進担当  
市民局地域活動推進課

－ 目次 －

- 1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
  
- 2 事例一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
  
- 3 事例紹介（1～18）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3～20
  
- 4 協働の「地域づくり大学校」のあゆみ・事業効果・・・・・・・・ P 21～22
  
- 5 【参考】協働の「地域づくり大学校」の各区取組一覧（令和元年度） P 23



# 1 はじめに



## 協働の「地域づくり大学校」とは

協働の「地域づくり大学校」は、自治会や各種委嘱委員など地域で既に活動されている方や、これから地域で活動したいと考えている市民の方が、活動事例の見学やグループワークを通じて、地域の課題解決の手法やまちの魅力づくりを学び合う講座です。

学び合いを通じて、地域づくりに関わっている方のスキルアップや新たな人材の発掘・育成につながることを目的とし、18区で実施しています。

この講座は、地域・区役所・NPO法人等が協働で企画・運営していることが特徴となっています。

## 修了生の活動事例について

高齢化が進み、単身世帯が増加するなかで、「身近な居場所」や「地域のつながり」のニーズが高まっています。地域の方が、そうしたニーズに気づき、自ら取り組んでいる事例が各地域で生まれています。

横浜市で実施している、協働の「地域づくり大学校」（以下、地域大）から地域課題の解決や魅力づくりにつながる様々な取組が生まれていることから、このたび地域大修了生の活動事例を18区から1例ずつまとめました。

事例紹介（3～20 ページ）では、修了生が地域大を通して地域で実現したことや、コロナ禍で工夫しながら取り組んだ事例などを紹介しています。これから地域活動を始めたいと考えている方のきっかけづくりや、既に地域で活動されている方の活動継続のヒントとなるよう作成しています。ぜひご活用ください。

### 【参考】事業実績

地域づくり大学校の参加者（市民） のべ2,497人（H26-R2）

修了後の具体的な活動内容（H26～R3年3月末）（各区の報告から把握できたもの）

- 新しい活動の開始やこれまでの活動の充実 218件
  - ※交流・居場所づくり、ボランティア組織立ち上げ、自治会町内会の役員等への就任、OB会・大学校サポーターなど
- 既存のボランティア活動等への参加 27件
  - ※地域ケアプラザ、区民活動支援センター、ガイドボランティア、コーヒーボランティアなど

今回掲載した事例をはじめ、各区地域大修了生が様々な分野で活躍されています。



（※）協働の「地域づくり大学校」のあゆみ・事業効果は、21～22 ページをご覧ください。

## 2 事例一覧

【交流・居場所（9件）、多世代交流（4件）、地域のボランティア組織（1件）、環境活動（1件）、情報発信（2件）、自治会活動の活性化（1件）】

※3ページから各事例（1から18）を紹介しています。

掲載番号	区	取組名称	取組内容	キーワード	受講年度	ページ
1	鶴見	下町茶房	参加者と担い手が共に楽しめる場所に！をコンセプトに、認知症カフェを月1回で開催中。	交流・居場所	平成29年度	3
2	神奈川	ふれあいっこ三ツ沢	同じエリアの卒業生2人が、お互いの「夢プラン」の共通性に気づき、自治会の協力を得て、自治会館で子ども食堂を実施中。平成30年度には2か所目の子ども食堂をオープン。コロナ禍で子ども食堂を開催できない状況から、令和3年度は学習支援の拠点を2か所でオープン。	交流・居場所	平成27・28年度	4
3	西	あみだな	生きづらさを抱えた家族をお持ちの方々へのフリートークの場を開設。R2年度からはコロナ禍に対応し、オンライン・リアル併用で開催。	交流・居場所	平成30年度	5
4	中	アメリカ坂ふぁ～む	本牧和田地域ケアプラザの敷地を活用し、「地域の菜園づくり」の活動を通して、近隣の福祉施設等と交流。	交流・居場所	平成30・令和元年度	6
5	南	道の愛称プロジェクト	道に愛称をつける活動を通じて、地域へのふるさと意識や愛着心を深める。	多世代交流	平成30年度	7
6	港南	なごみのば	団地内にあるショッピングセンターの空き店舗を利用し、2連合エリア共催でみんなの居場所「なごみのば」を開催中。	交流・居場所	平成25年度	8
7	保土ヶ谷	常盤台地域ささえあいボランティア ありが隊	自ら作成した活動プラン「マイプラン」で「お手軽近所ボランティア」を掲げ、地域の庭木のお手入れボランティア「ありが隊」を立ち上げ、有償ボランティア団体として活動継続中。	地域のボランティア組織	平成29・30年度	9
8	旭	中堀川いこいの場づくり	清掃活動や植栽活動、児童の絵を飾るプロムナードギャラリーの取組等を通して、中堀川プロムナードを地域のいこいの場とすることを目指している。令和元年度からはホテルの生育を目指した活動も開始し、周辺の自治会町内会、小学校や水辺愛護会などと連携しながら活動継続中。	環境活動	平成29年度	10
9	磯子	mamariba	2か月～入園前の子どもと保護者を対象に、自由におしゃべりや情報交換のできる場を、地元の自治会館で月1回開催。	多世代交流	平成30年度	11
10	金沢	レコード鑑賞会 「定年だよ！ 全員集合！」	町内会館で、懐かしいレコードを持ち寄り、音楽を聴きながらおしゃべりを楽しむレコード鑑賞会を月に1回開催中。	交流・居場所	平成30年度	12
11	港北	思いあいのまち榊町	榊町地区では、広報誌「榊町イベント掲示板」とホームページによる情報発信に加え、令和元年度よりSNS(Twitter、LINE公式アカウント)を活用した取組を進めている。	情報発信	平成30年度	13
12	緑	ながつた ハロー☆ウオーク	子育てを応援したい、されたい人が集い楽しむコミュニティ「NIKO」が企画した長津田の「まち」を好きになれるイベントを開催。世代を超えて交流中。	多世代交流	平成30年度	14
13	青葉	地域交流イベント「光る池」	30年度の受講生が取り組んだ地域交流イベント(もえぎ野公園で実施)。令和元年度からは卒業生が実行委員長となり、地元連合町内会主催で継続して実施。	交流・居場所	平成30年度	15
14	都筑	真夏の夜の映画会	家族で楽しめる映画上映会を山田富士公園で実施。設営から誘導、撤収まで全てが住民の手づくりによるものであり、毎回200名前後が来場。	自治会活動の活性化	平成28・29年度	16
15	戸塚	地域づくりのための情報誌Crew	平成29年度に1期～3期の修了者によりOB・OG会を立ち上げた。地域づくりのための情報誌Crewを発刊し、区内の活動団体の紹介、自治会・町内会、連合会活動のコラム、地域づくりのためのSDGsについてのコラムを連載している。	情報発信	平成28年度	17
16	栄	花かご文庫 ユトリート	みんなが集える「子どもの居場所」を目指して、読書活動、駄菓子屋、学習援助、工作等、ゆるく広く展開中。	交流・居場所	平成30・令和元年度	18
17	泉	緑園子ども見守りプロジェクト	緑園東・西小学校の生徒が育てた花を地域の皆さんの自宅の庭先や玄関前に置き、子どもたちの見守りや防犯等につなげる。	多世代交流	平成25年度	19
18	瀬谷	ゆるり会	ひきこもり、ひきこもり経験者、生きづらさを感じる方々の居場所です。毎月第一土曜日にサロンを開催しております。 ホームページ <a href="https://www4.hp-ez.com/hp/yururiseya/page0">https://www4.hp-ez.com/hp/yururiseya/page0</a>	交流・居場所	平成30年度	20

※令和3年4月末時点の情報です。

## 事例 1

交流・居場所

～ 参加者と担い手が共に楽しめる場所に～

### 【鶴見区事例】「下町茶房」(平成 30 年 4 月開設)

#### 団体紹介

- ・団体名：下町茶房
- ・活動者の受講年度：平成 29 年度（第 2 期生）
- ・メンバー数：5 人
- ・活動実績：令和元年度は、月 1 回開催、約 7 人が参加など
- ・活用制度：特定非営利活動法人あしほ からの支援金

ヨコハマいきいきポイント（介護支援ボランティアポイント事業）



#### 活動内容

代表の荻島さんが、「認知症の人とその家族の居場所を作りたい」との思いから、平成 29 年度鶴見区地域づくり大学校（当時：鶴見・おもしろゼミナール）を受講されました。講座では、地域で実現したいプランを話し合うために 3 つのグループが結成され、荻島さんが参加したグループは「サロンづくり」を目指しました。「サロン」と、ひと口に言ってもいろいろなテーマや運営の方法があることを知り、認知症になっても暮らしやすい地域になってほしいという思いをさらに強く持ち、認知症の人やそのご家族が気軽に集える場づくりを学び、企画しました。

講座終了後、より具体的な検討を始めました。場所探しに一番苦労しましたが、潮田地域ケアプラザの協力もあり、平成 30 年 4 月にサロンをスタート。潮田地域ケアプラザ前のふれあいサロン・ポートで「認知症カフェ」を月 1 回で開催しています。『参加者と担い手が共に楽しめる場所に！』をコンセプトに、毎回平均 7 人くらいの方が参加し、荻島さんのお手作りのお菓子とおしゃべりを楽しんでいます。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い施設が使えず、令和 2 年度はほとんど活動ができませんでしたが、参加されていた方たちから「早く再開して」との声もあり、いつでも再開出来るように準備を進めているそうです。

## 事例 2

交流・居場所

～ こどもを見守るナナメの関係をつくる場所 今日も元気に「ただいま！おかえりなさい！」 ～

### 【神奈川県事例】「ふれあいっこ三ツ沢」（平成 29 年 9 月開設）

#### 団体紹介

- ・団体名：ふれあいっこ三ツ沢
- ・活動者の受講年度：平成 27 年度（第 1 期生）・平成 28 年度（第 2 期生）
- ・活動者数：185 人（延べ人数）
- ・活動実績：令和元年度は月に 1 回開催、約 222 人（延べ人数）が参加
- ・活用制度：かながわ地域支援補助金（平成 29 年度～令和元年度）



※平成 30 年 6 月撮影

神奈川県社会福祉協議会のふれあい助成金（令和元年度～令和 2 年度）

#### 活動内容

「ふれあいっこ三ツ沢」は、子どもの生活課題の解決を目的に、神奈川県三ツ沢地区の主任児童委員・民生委員の有志を中心に、地域のボランティア活動者などにより結成された団体です。

同じエリアの卒業生 2 人が、お互いの「夢プラン（地域づくり大学の卒業制作として地域で叶えたい夢プランを描くもの）」の共通性に気づき、三ツ沢地区連合自治会の協力を得て、平成 29 年 9 月に自治会館で子ども食堂（三ツ沢東町）を実施中です。平成 30 年 9 月には三ツ沢西町に 2 か所目の子ども食堂をオープンしました。食堂の他、学習支援や体験学習も行っています。

毎月 2 回の開催日は、子どもや親子連れで賑わいます。地域の有志のボランティア（高齢者向けの配食サービス「ふれあい会」でのボランティア経験者）で、それぞれの回の料理を担当しています。食事を待つ時間や食後、神奈川県立横浜国立大学の学生ボランティアが、子どもの遊び相手となり、勉強を見てくれます。

代表の小川さんは、子どもたちとの関係は、家族でも学校の先生でもない、ナナメの関係だと思い、子どもが地域でさまざまな大人と出会い、多方面から子どもの支援をしていきたいと考えています。

令和 2 年 2 月末、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動を休止しましたが、同年 5 月に「食品頒布会」を開始しました。

また、令和 3 年度から、学習支援の拠点として、ふれあいっこ三ツ沢南町・上町を開設しました。

「ふれあいっこ三ツ沢」は、食事支援の理念として、「食べることは生きること」の根本的理念のもとに開催してきました。コロナ禍で子ども食堂が開催できない状況ですが、学習支援を行っているのは、代表の小川さんは、「食」の次に大事なものは「教育」と捉え、家庭環境の違いで未来ある子供の可能性を奪ってはいけないと思ったためです。SDGs では、地球上の「誰一人取り残さない」持続可能な開発目標 4「質の高い教育をみんなに」を達成することが主旨と考えています。

（代表の小川さん）「地域大受講は、主任児童委員の仲間に誘われたのがきっかけです。地域大で学んだことは、色々ありますが、既に活動している所への訪問で、お話を聞いたことで、私にも出来るかもと思えるようなイメージトレーニングになりました。地域大への参加を通して実現したことは、『ふれあいっこ三ツ沢』の開設です。地域大に参加していなかったら、実現できなかったと思っています。」

### 事例 3

交流・居場所

～生きづらさを抱えた家族をお持ちの方々へのフリートークの場 あみだな～

#### 【西区事例】「あみだな」(平成 30 年 11 月開設)

##### 主催者紹介

- ・主催者：Izu. さん
- ・活動者の受講年度：平成 30 年度（第 7 期生）
- ・メンバー数：1 人
- ・活動実績：偶数月の第一木曜日に開催。（定員 6 名）
- ・活用制度：なし



##### 活動内容

受講のきっかけは、引っ越してきたばかりで心の居場所を探していたとき、西区地域づくり大学校を紹介されたことでした。

「《社会との関わりを閉ざしている・学校へ行けなくなっている》などで悩んでいる家族の方々と一緒に、本音を吐き出して、ちょっと楽に過ごせるようになれば」と思い、講座受講期間中のトライアル開催を経て、少人数のフリートーク会を開始し、その後、《にしく市民活動支援センターにしとも広場》のサポートもあり、偶数月第一木曜日に定期的に開催しています。

おしゃべりしたいだけでなく、『聞くだけ、居るだけでも大丈夫』自分の好きなスタイルで参加してもらって、ホッと安心できる場を目指しています。また、気楽に参加しやすいように、当日参加・途中の入退出をOK、定員は約 6 名ほどの少人数制にしています。

令和 2 年度からはコロナ禍に対応して、いち早くオンラインを取り入れ、リアルの場合と併用した開催を始め、活動の幅が広がっています。今後、主催者 Izu. が区外へ転居することがあっても、このオンラインツールを使って、西区での活動が継続され、悩みの吐出し場所【あみだな】は、悩みを持つ方々と共に身の丈でずっと寄り添っていきます。

## 事例 4

交流・居場所

～ 菜園づくりを通じた地域の活動 ～

【中区 わが町いきいきゼミナール（地区型※）】

【事例】「アメリカ坂ふぁ～む」（令和元年8月設立）

### 団体紹介

- ・団体名：アメリカ坂ふぁ～むの会
- ・活動者の受講年度：平成30年度、令和元年度（第2、3期生）
- ・メンバー数：10人
- ・活動実績：（令和2年度より毎月第3金曜日に定例会開催）  
水やり・草取りなど日常管理作業は当番制
- ・活用制度：「3R夢（スリム）農園」に登録



菜園づくりの様子

### 活動内容

平成30年度から2か年にわたって開催された、中区の地域づくり大学校「わが町いきいきゼミナール」は、本牧和田地域ケアプラザの敷地を活用した「菜園活動」を通じて、地域のつながりを育もうと企画されました。

（地域住民が気軽に参加できる活動を検討していたケアプラザと中区役所が、本牧・根岸地区連合町内会の丹羽会長の協力を得て、「わが町いきいきゼミナール」が実現。）

「仲間とともに菜園活動をすることで、生きがいをもって元気に過ごしたい。」という思いを持った方が集まり、ゼミナールがスタート。地域活動の手法と農作業を学び、徐々に仲間づくりを進め、講座参加者により令和2年4月「アメリカ坂ふぁ～むの会」を立ち上げ自主的に活動を行っています。土と触れ合いたい人や野菜を育ててみたい人なら誰でも参加でき、農作業の様子をみて興味を持った人がグループに参加するなどメンバーも少しずつ増えています。また、ゼミナールの中で見学に訪れた近隣の農園とは情報交換をしたり、農機具を借りたりするなど、交流を図っています。

令和元年秋には、初めて収穫したジャガイモなどの野菜を提供し、地域ケアプラザの「男の料理教室」のメンバーにカレーなどを調理していただき、招待した児童養護施設の子どもたちと一緒に、みんなで食事をしながら交流を深めました。

「アメリカ坂ふぁ～む」の活動から地域に連携の輪が広がっています。

※区域全域を対象とした講座形式ではなく、地区連合町内会等の特定のエリアを対象に、その地区の課題解決の取組を通じて、連携する団体や参加者を広げ、担い手の育成につなげています。



## 事例5

多世代交流

～ ここが私たちのふるさと 道に愛称をつけて地域愛を深めよう ～

### 【南区 寺子屋みなみ（地区型※）】

### 【事例】「道の愛称プロジェクト」（平成31年4月開始）

#### 団体紹介

- ・団体名：ふるさと創生の会／南永田山王台連合町内会  
（事業名：道の愛称プロジェクト）
- ・活動者の受講年度：平成30年度（第4期生）
- ・メンバー数：33人
- ・活動実績：（平成31年4月に道の愛称プロジェクトニュース1号を発行し、現在8号まで発行。）
- ・活用制度：みなみ・ちからアップ補助金



まち歩きの様子

#### 活動内容

「道に愛称をつける活動を通じて、地域へのふるさと意識や愛着心を深めよう」という思いが地域で広がる中、平成30年度に南永田山王台地区で「寺子屋みなみ」が開催されました。3回の講座では「まずは、地域を歩いてみよう。」と30名程の参加者がまち歩きを体験。今まで気付かなかった小道を歩いたり、素晴らしい景色を見たりと、改めて地域の魅力を知ることができました。

卒業生がプロジェクトチームを結成し、まちの魅力や歴史を知ってもらうため、ワークショップを開催し、広報誌やホームページで幅広く発信することで、地域の学校も参加するなど、多世代にプロジェクトが浸透し、盛り上がりを見せています。

道の愛称を募集したところ、様々な世代から、300通近い応募がありました。コロナ禍で予定していたイベントを開催することができず、思うように活動が進まないこともありましたが、令和2年12月末には、27の道の愛称が決定！今後は27の道をどのようなコースで歩くと面白いのか、年代別、テーマ別に歩くコースを検討したり、愛称のプレート作りを企画中です。

「道の愛称プロジェクト」を通じて、地域が一体となり豊かなまちを創り出しています。

※区域全域を対象とした講座形式ではなく、地区連合町内会等の特定のエリアを対象に、その地区の課題解決の取組を通じて、連携する団体や参加者を広げ、担い手の育成につなげています。

## 事例 6

交流・居場所

～ 野庭のまんなか ♥ みんなの居場所 ～

### 【港南区事例】「なごみのば」(平成 28 年 5 月開設)

#### 団体紹介

- ・団体名：野庭地域活動拠点管理運営委員会
- ・活動者の受講年度：平成 25 年度（第 1 期生）
- ・メンバー数：8 名
- ・活動実績：令和元年度 開場日数：216 日 延べ利用数：4,206 人
- ・活用制度：横浜市住宅供給公社 との連携事業



歌声カフェ開設時の様子

#### 活動内容

「なごみのば」のスタートは、野庭団地地区の地区社会福祉協議会会長の林さんが、平成 25 年度の「学び舎ひまわり」に参加したことがきっかけでした。「こんなことを実現させたい」企画を作る課題で団地の中で食事やお茶を楽しんだりできる場所が少なかったため、「誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくり」をプランとして企画しました。

学び舎ひまわり卒業から 3 年、様々な関係者と調整し、横浜市住宅供給公社から団地内のショッピングセンターの空き店舗を提供してもらい、平成 28 年 5 月、地域の居場所・活動拠点「なごみのば」が誕生しました。

コロナ以前は、毎週水・金曜日の 10 時～16 時までオープンしており、演奏会や、歌声カフェ、健康体操、手話教室、折り紙カフェなど、様々な催しを実施し多くに方でにぎわっていました。個人での利用だけでなく、サークル等の活動の場としても利用されていました。

令和 2 年度は感染症対策等により、気軽に立ち寄れる居場所としての開設は難しくなりましたが、人との距離が確保できる手話サークル等に利用されていました。現在は、再オープンに向けて準備中です。

活動拠点として「地域の皆さまが気軽に『利用したい』形で利用できるようにしていきたい」そんな思いが詰まった拠点です。

## 事例 7

## 地域のボランティア組織

～庭のお手入れボランティア 「ありが隊」 活動中！ ～

### 【保土ヶ谷区事例】「常盤台地域ささえあいボランティアありが隊」(平成 29 年春開設)

#### 団体紹介

- ・団体名：常盤台地域ささえあいボランティアありが隊
- ・活動者の受講年度：平成 29、30 年度（第 2、3 期生）
- ・メンバー数：地域住民有志 15 人
- ・活動実績：(令和 2 年度 11 軒 23 回)
- ・活用制度：地区社協助成金



活動の様子

#### 活動内容

ありが隊メンバーの坂野さんは、平成 29 年度「ほどがや楽考（地域づくり大学校）」を受講。地域で「ありが隊」の立ち上げを検討している時期だったので、「紆余曲折はむしろ楽しむべし」という「ほどがや楽考」での学びは、とても参考になったそうです。「自由な集まりだからこそ、結論を急がず話し合い、みんなが納得できるようにする。」「グループの目的がブレなければ、あとはいろいろやってみて考える。」そうした学びのもとに立ち上がったのが、楽しく学びながら、地域でお困りの方をサポートする庭のお手入れボランティア「ありが隊」です。

「ありが隊」の活動は、地域のニーズがあってこそこの活動で、同時にボランティア自身のやりがいにもなっているそうです。

令和 2 年度は緊急事態宣言が解除されてから活動を行い、新しいメンバーも増え、横浜国大生の参加もありました。素人のボランティアなので大人数で活動するのですが、庭の手入れの依頼者が「こんなにたくさん来てくれた」と喜んでくれるそうです。今年もリピーターのお宅数軒のほか新しい依頼も来ているそうです。ボランティアと依頼者のつながりもでき、緩やかな見守りになっているそうです。

## 事例 8

## 環境活動

～ 花と緑にあふれ、ホタルの舞う中堀川プロムナードをめざして ～

### 【旭区 新あさひみらい塾（地区型※）】

### 【事例】「中堀川いこいの場づくり」（平成 30 年 4 月開始）

#### 団体紹介

- ・団体名：旭北地区連合自治会
- ・活動者の受講年度：平成 29 年度（第 4 期生）
- ・メンバー数：39 人（令和 3 年 3 月末現在）
- ・活動実績：令和元年度は、月 2 回、延べ 125 人が清掃活動に参加  
植栽活動（年 6 回）には、延べ 40 人が参加

プロムナードギャラリーには、170 枚の児童の絵が飾られた。

ホタルの生育を目指す取組（年 6 回）には、45 人が参加

- ・活用制度：旭区きらっとあさひ地域支援補助金  
あさひコーディネーター派遣事業  
区づくり推進費「水・緑・花を暮らしに取り入れた  
旭区魅力アップ事業」の中の「ホタルの舞う里づくり」  
の専門家派遣



プロムナード沿いのフェンスに地元小学校児童絵画の掲示作業を会員皆で実施



ゲンジボタルの幼虫をプロムナードせせらぎに放流（この後、ホタルはサナギになるため上陸し、羽化します。）

#### 活動内容

旭北地区連合自治会（会長 渋谷八郎さん）は、平成 29 年に都市緑化フェアが開催されたことを契機に、「鶴ヶ峰駅方面から里山ガーデンへの通り道である白根通りや中堀川プロムナードの魅力を向上させたい」と考え、「新あさひみらい塾」に参加しました。同じ取組を進めている「旭北地区連合自治会まちぐるみ福祉推進会議第 3 部会（旭北地区の地域福祉保健計画にもとづく組織）」や「中堀川プロムナード水辺愛護会」と連携し、流域の上白根町内会も加わり、中堀川の美化やホタルの復活について 7 回にわたって話し合いや学習を行い、その話し合いの結果を「中堀川いこいの場づくり」として実施計画を立て、平成 30 年から活動を始めました。

中堀川プロムナードを魅力ある、地域のいこいの場とするために、清掃活動や花植えを行い、プロムナードに小学生の絵を飾っています。また、令和元年からプロムナード沿いのせせらぎにホタルを復活させる活動も開始しています。周辺の自治会町内会を始め、小学校や水辺愛護会など、中堀川プロムナードに関わる人たちと連携協力し、水辺環境の整備だけにとどまらない、交流の場づくりに取り組んでおり、子どもから高齢者まで地域の方に環境活動の大切さを、楽しく自然な形で広めています。こうした活動が評価され、令和 3 年、第 28 回横浜環境活動賞を受賞しました。

※区域全域を対象とした講座形式ではなく、地区連合町内会等の特定のエリアを対象に、その地区の課題解決に向けた話し合いや学習を通じて、連携する団体や参加者を広げ、担い手の育成につなげています。

## 事例 9

## 多世代交流

～お母さんとみんなの広場 手作りのおしゃべり・情報交換ができる広場です～

### 【磯子区事例】「mamariba」（平成 31 年 4 月開設）

#### 団体紹介

- ・団体名：おかむら子育て応援隊『BaBariba』
- ・活動者の受講年度：平成 30 年度（第 2 期生）
- ・メンバー数：3 人+応援団
- ・活動実績：月 1 回開催、10 組前後の親子が参加
- ・活用制度：磯子区地域運営補助金（磯子区役所）



親子みんなで輪になって楽しくおしゃべり

#### 活動内容

助産師の佐藤さんが、経験を生かして、地域で出産前後の母親のサポートをしたいという思いから、平成 30 年度「いそご地域づくり塾」を受講しました。受講後、磯子区社会福祉協議会や滝頭地域ケアプラザ等の支援を受け、平成 31 年 4 月から、岡村西部連合自治会の協力のもと、子育て経験豊富な 2 名の仲間とともに地元の自治会館で月 1 回「mamariba」を開催しています。

「mamariba」の名前の由来は、「ママのたまり場」で、主な対象は、2 か月から入園前の子どもと保護者、妊婦など。お茶タイムでほっこりしながら、自由におしゃべり・情報交換できる広場を目指しています。

「mamariba」ではストレッチや子育て情報の提供のほか、子育て支援拠点や区役所など関係機関と連携して、「乳幼児の救急法」など子育てに役立つ講話も実施しています。

また、令和 2 年 2 月に地域の梅まつりに参加し、「mamariba」を地域の皆様に紹介・PR しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和 2 年 3 月から活動を休止していましたが、令和 2 年 12 月に再開！検温、体調確認、手洗い・消毒、換気、マスク着用など感染防止に気をつけながら、「mamariba」を継続しています。

参加者からは、「ここでほかのお母さんたちと知り合いになれてよかった。」「1 歳を過ぎると行く場所が限られてくるのでここへ来るのが楽しみ」といった声が聞かれます。

主宰者の佐藤さんは、「『地域づくり塾』で学んだことで、思いを実現することができました。これからも地域のお母さん方が気軽に参加できる場として続けていきます。」と話していました。

**【金沢区事例】レコード鑑賞会「定年だよ！全員集合！」（平成 30 年 12 月開設）****団体紹介**

- ・団体名：埋蔵社会資源発掘プロジェクト
- ・活動者の受講年度：平成 30 年度（第 5 期生）
- ・メンバー数：12 名
- ・活動実績：令和 2 年度は、月 1 回開催
- ・活用制度：特になし

**活動内容**

「レコード鑑賞会」活動は、平成 30 年『地域づくり塾かなざわ』（12 月開講）の最終課題「新たな社会資源を生み出す」の企画の中から誕生しました。（その時の企画書タイトルが「定年だよ！ 全員集合！」でした）

寄贈いただいたもののほかに、昔愛聴した懐かしいレコード（LP・ドーナツ盤）を持ち寄って、お茶を飲みながら、音楽について、それ以外のことでも自由に語り合ひましょう、というのが基本のコンセプトです。

針を落とすレコードのジャンルも歌謡曲からジャズまでと幅広く取り揃え、誰もが楽しめるよう工夫しています。

参加者の中から、地域活動に参加していただける方を発掘したい、というのが最終目標です。

当初、開催場所は六浦地区の各町内会館の持ち回りを検討していましたが、現在は瀬戸町内会館で月 1 回開催しています。

コロナ禍の中での開催は、密を避け、飲み物は自粛。マスクの着用と着席前の検温は必須とし、ゆとりを持って間隔をあけた席で鑑賞しています。

参加者からは「生活に張り合いができています」「外出する機会ができて嬉しい」との声が寄せられ、高齢者の参加も多いので、見守りの機会にもなっています。

## 事例 11

## 情報発信

### 【港北区事例】「思いあいのまち樽町」（平成 28 年 7 月開設）

#### 団体紹介

- ・団体名：「ひっとプラン港北樽町地区推進委員会」  
（樽町地区連合町内会、樽町地区社会福祉協議会、樽町地域ケアプラザ、樽町中学校等で構成）
- ・活動者の受講年度：平成 30 年度（第 3 期生）
- ・メンバー数：約 30 名
- ・活動実績：令和元年度は、HP 更新 50 回以上、広報誌 2 回発行
- ・活用制度：（地域のチカラ応援事業補助金）



「思いあいのまち樽町」ホームページ

#### 活動内容

工場跡地のマンション化などで人口流入が続いている樽町地区では、インターネットを積極的に活用して、イベント広報誌「樽町イベント掲示板」とホームページによる情報発信に加え、SNS（Twitter、LINE 公式アカウント）による取組を進め、情報共有を図っています。

樽町地区の代表の小泉さん（令和 2 年度に樽町連合町内会長に就任）は、平成 30 年度の港北つなぎ塾で自治会町内会におけるホームページによる情報発信についての事例報告を行い、令和元年度港北つなぎ塾では、「地域活動へ参加を促すために、どのような情報をどのように発信するか」を話し合うグループにアドバイザーとして参加。また、令和 2 年度港北つなぎ塾「つなぎ塾トーク」では、地区の社会福祉協議会、子育て・高齢者支援に携わる仲間の皆さんとともに、コロナ禍で変化した地域活動の現状について、発信してくれました。

日常的な連絡手段としては、「LINE」をうまく活用したり、また、連合町内会など地域の打合せでは、会議資料をプロジェクターで投影し、ペーパーレスにも取り組んでいます。一方、居場所の休止により子育て中の母親が孤立するなど、顔と顔を合わせ直接関わり合うコミュニケーションの重要性も感じており、オンライン活用とリアルのつながりをどう組み合わせるかを模索しています。

## 事例 12

## 多世代交流

～長津田をもっと楽しく、もっと元気に！

### 【緑区事例】「ながつた ハロー☆ウォーク」(令和2年10月開催)

#### 団体紹介

- ・団体名：N I K O (ニコ)
- ・活動者の受講年度：平成30年度(第4期生)
- ・メンバー数：10人
- ・活動実績：実験的に自宅を開放するイベントを開催。

(月1回程度)カラオケ会や「みんなで作ろう餃子まつり」等  
令和2年度は「街を知ろう」をコンセプトにハロウィンに合わせたイベントを企画。約370人という参加があり成功をおさめた。

イベントの参加施設は、長津田地域ケアプラザ、緑消防署長津田消防出張所、みどりアートパーク、長津田地区センター、長津田駅。参加店舗は13店舗

- ・活用制度：令和2年度緑区地域課題チャレンジ提案事業(スタートアップコース)



参加を呼びかける代表の井山さん  
(写真①)

#### 活動内容

代表の井山さんには、長津田で多目的カフェを開くという夢があり、その実現のために人脈を広げたいという願いがありました。そんな折、平成30年度みどり「ひと・まち」スクールの募集を知り受講。同じように志を持って活動している仲間や先輩たちとの出会いがあり、世代を超えたつながりができました。講座終了後、自宅を開放した「つどいの場」を実験的に開催。育児、子育てを応援したい、されたい人が気軽に集う場となっています。

「ながつた ハロー☆ウォーク」は、世代を越えて長津田の街を好きになってほしいという思いで、令和2年10月に同団体が企画しました。スクールからつながりができた長津田地域ケアプラザの紹介により空き店舗をスタート地点とすることができました。(写真②)

新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで打合せを行いましたが、実際に現場での当日のシミュレーションができず困難を極めました。当日の感染症対策もチェックシートの作成や各店舗への消毒依頼等やるべきことが山積でしたが、ママたちの力を結集して乗り切ったそうです。

初めてのイベントを経験したからこそ見えてきた課題、反省点がありました。参加者アンケートからは「続けてほしい」という声が多く、コロナ禍の状況を見ながら開催したいと意欲をみせています。

同イベントは「緑区地域課題チャレンジ提案事業」のスタートアップコースとして採択されました。こうした資金面の制度もスクールの受講がなければ知らないままだったそうです。また、「手伝ってほしい」という求めに「いいよ！」と気軽に手を挙げてくれたスクールのつながりに感謝したいと振り返っています。



空き店舗を活用したイベントスタート地点(写真②)



## 事例 13

交流・居場所

～地域の課題をアートの力で魅力に変える～

### 【青葉区 みらいづくり大学事例】「地域交流イベント 光る池」(平成 30 年 12 月～)

#### 団体紹介

- ・運営主体：実行委員会（「あおばみらいづくり大学」卒業生）、  
上谷本連合町内会
- ・活動者の受講年度：平成 30 年度（第 4 期生）
- ・メンバー数：4 人（卒業生） スタッフ約 100 人
- ・活動実績：平成 30 年度 来場者約 1,500 人  
令和元年度 来場者約 350 人※雨天のため規模縮小  
令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止
- ・活用制度：青葉みらいおこし補助金（現 あおば地域サポート補助金）



#### 活動内容

青葉区の地域づくり大学「みらいづくり大学」では、各年度テーマを設け、青葉区の魅力発見や発信、魅力づくりなどを行っています。平成 30 年度は、横浜美術大学の学生と一緒に、地域の課題をアートの力で魅力に変えることを目的に、受講生自らが企画・イベントを実施しました。

田んぼ de アートや車体を花壇とみたくてアートスポットを作り出すなど 5 つの企画を実施し、地域のつながりを生むきっかけとなりました。

5 つの企画のうちの一つが、地域交流イベント「光る池」です。地域のつながりが希薄化する中、多世代が交流し顔の見える関係づくりを目指し、もえぎ野公園の池に、およそ 100 個の青いライトを浮かべ、ライトアップするとともに、来場者が夢や願い事をカードに書いて池周辺の木々につるすイベントを企画しました。イベントは大好評で、「来年もまたやってほしい」という声が寄せられたそうです。

そこで、単発で終わらせず、「町内会の活動として、今後も続けていこう」と決まり、令和元年度からは「みらいづくり大学」の卒業生が実行委員長となり、地元連合町内会主催で継続して実施しています。

（令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。）

## 事例 14

### 自治会活動の活性化

～町内会の活動を活性化！～

### 【都筑区事例】「真夏の夜の映画会」(平成 29 年 8 月開設)

#### 団体紹介

- ・団体名：北山田町内会
- ・活動者の受講年度：平成 28、29 年度（第 2、3 期生）
- ・メンバー数：役員，理事 35 人程度
- ・活動実績：(令和 2 年度は、約 200 人が参加。(毎年 8 月開催)
- ・活用制度：町内会活動

#### 活動内容

中心メンバーである、大和 力さん（北山田町内会 副会長）は、「町内会のイベントを活性化させたい」という動機で、平成 28、29 年度都筑区地域づくり大学校を受講。講座の中でイベント実施のノウハウ等を学び、講座終了後、「真夏の夜の映画会」を企画。平成 29 年から、自然の中で星空を眺めながら家族で楽しめる映画上映会を山田富士公園で開催しています。設営から誘導、撤収までの全てを地域住民で担い、毎回 200 名前後が来場。北山田町内会の人気イベントの一つとなっています。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、町内会の夏祭りなど、地域の子供も達が楽しみにしている多くのイベントが中止となりましたが、「夏休みの思い出を一つくらいは作ってあげたい」との思いから、地域の方々にも協力もあり、町内会で様々な感染症対策を行った上で、映画会を開催することができました。



## 事例 15

情報発信

～ 地域づくりの活動を行う人が交流する場をつくろう！ ～

### 【戸塚区事例】「地域づくりのための情報誌 Crew」(平成 29 年 9 月開設)

#### 団体紹介

- ・団体名：とつか楽しい地域づくり Crew
- ・活動者の受講年度：平成 28 年度（第 3 期生）
- ・メンバー数：7 名（世話人）
- ・活動実績：令和 2 年度は情報誌 Crew を 1 回発行（通常年 4 回）
- ・活用制度：情報誌 Crew 発行のための補助金



地域づくりのための情報誌 Crew

#### 活動内容

「戸塚区地域づくり大学校」の受講生 3 期生 2 名が、「夢プラン実現のための仲間づくりをしたい」「講座終了後もつながりを持ち続けたい」「各自が行っている活動の仲間づくりをしていきたい」という思いから、OB 会設立を提案しました。そして、講座終了後に 1 期から 3 期の代表者が集まり検討を行いました。その結果、平成 29 年 9 月に戸塚区地域づくり大学校 OB 会を立ち上げることになりました。

その後、OB 会という名称だと関係者以外活動に参加できないイメージになってしまうことから、会の名称を「とつか楽しい地域づくり Crew (以下 Crew)」という名称に変更をし、現在に至っています。

Crew の主な活動は、戸塚区地域づくり大学校のカリキュラムを取り入れたまち歩き企画、SDGs 講座の企画運営、とつかお結び広場（※）への参加です。

情報誌 Crew は、これらの活動を広報するとともに、仲間を増やすべく、年間 4 回（5 月・8 月・11 月・2 月）発行しています。

紙面は、区内の活動団体の紹介をはじめ、自治会・町内会、連合会に関するコラムや「～地域づくりに SDGs の視点を～住み続けられる街を目指して」をテーマとした記事など、地域での様々な取組や情報を掲載しています。令和 2 年 5 月には「臨時号 コロナに負けるな!」を発行し、コロナ禍で様々な制約がある中、地域の活動を行うポイントについて記事を書きました。

現在、緑区や神奈川区の地域づくり大学校メンバーと協力をし、市内の地域活動の情報発信のハブになるべくホームページ（よこはまエンパワメントジム・ホームページ）を立ち上げ、活動を行っています。

（※）「とつかお結び広場」は、戸塚を中心にボランティアや生涯学習、市民活動をしている団体や個人の方が、日頃の活動をわかりやすく紹介するイベントです。

## 事例 16

交流・居場所

～「子どもの居場所」は、みんなの居場所～

### 【栄区事例】「花かご文庫 ユトリーロ」(令和2年9月開設)

#### 団体紹介

- ・団体名：花かご文庫 ユトリーロ
- ・活動者の受講年度：平成30・令和元年度（第3・4期生）
- ・活動実績：毎月第2、第4土曜日（12：00～17：30）開館  
親・子合わせて1日15人前後が訪問



子どもも手伝う駄菓子コーナー

#### 活動内容

代表の富江 里栄さんは学童保育所スタッフ歴 25 年以上。「子どもが何もしなくてもいられる場所を作りたい」という思いから、「居場所づくり」をテーマにした「栄区地域づくりキャンパス」を2年に渡って受講しました。そして令和2年の秋、コロナ禍という逆境にも負けず、念願の「花かご文庫 ユトリーロ」をオープン。閑静な住宅街にある空家を活用した「花かご」内にある居心地のいい空間です。内容は読書活動、駄菓子屋、折り紙やお茶の教室など。地域の若者がルービックキューブのパフォーマンスを披露するなど、発表の場としても活用され始めています。小学生が駄菓子屋の店番を手伝ってくれるのよ、と富江さんは嬉しそうに語ります。



代表者の富江さん

「地域に根ざすコンパクトな居場所があちこちにあるのが理想的」というのが持論。学童のスタッフ時代に知り合った人や、自治会、地域ケアプラザ、区役所ともつながりを持ち続けてきたことが今、実を結んでいるように感じると言います。目下の目標は、活動の協力者を発掘すること。「できることを、できる時に、できるだけやる」をモットーに、今日も富江さんは笑顔で訪れる人を迎えています。

## 事例 17

多世代交流

～ 花がつなぐ地域のきずな ～

### 【泉区事例】緑園子ども見守りプロジェクト

#### 団体紹介

- ・団体名：緑園地区活性化委員会
- ・活動者の受講年度：平成 25 年度（第 2 期生）
- ・委員数：約 30 名（令和 2 年度）
- ・活動実績：緑園地区活性化委員会 定例会（年 6 回）  
子ども見守りプロジェクト  
（花植え、贈呈式（年 2 回）） 等
- ・活用制度：泉区地域経営まちづくり支援補助金  
泉区地域運営補助金



花の贈呈式の様子

#### 活動内容

緑園地区活性化委員会は、泉区にある 12 地区の経営委員会の 1 つで、緑園地区に関する様々な課題の発見・整理や地域で解決できることについて実践的な活動をしていく組織です。委員の小島さんは、委員会の新たな取組である緑園子ども見守りプロジェクトの活動について検討するにあたり、様々な地域活動の事例を学ぶために、平成 25 年度の泉区まちづくりみらい塾を受講しました。

緑園子ども見守りプロジェクトは、緑園東小学校と緑園西小学校の生徒が育てた花を地域の皆さんの自宅の庭先や玄関前などに置き、手入れを行うことで子どもたちと関わり、見守りや防犯につなげる目的で平成 26 年度から実施されています。活動にあたっては、緑園地区活性化委員会が両校に通う児童の暮らす地区の 14 自治会町内会や区役所・県警等と連携し、毎年、春と秋の年 2 回、花苗の選定や贈呈を実施しています。

委員の皆さんから、「自治会町内会の役員だけでなく保護者も積極的に参加し、自治会町内会と子どもたちのよいつなぎ役になってくれている。地域みんなで取り組んでうれしい」という声をいただいています。また、贈呈式は両校交互に行われており、令和元年度は緑園西小学校にて実施され、両校の児童をはじめ、地域の関係者など約 150 人が参加しました。



花苗の選定の様子

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動が中止となりましたが、学校等と調整したうえで、今後も続けていきたいと考えています。

## 事例 18

交流・居場所

～ ふらっと立ち寄って、な～んにもしなくていい場所です！ ～

### 【瀬谷区事例】「ゆるり会」(平成 31 年 2 月第一回ゆるり会)

#### 団体紹介

- ・団体名：ゆるり瀬谷
- ・活動者の受講年度：平成 30 年度（第 1 期生）
- ・メンバー数：6 名 ※ピアサポーターさん含む
- ・活動実績：令和 3 年度までにゆるり会 22 回開催  
スピンオフで夕涼み会、オンラインライブ等開催

#### 活動内容

ひきこもりの経験をもつ家族がいる青木さんは、ひきこもりの人やひきこもりの経験がある人、生きづらさを感じている人などが「ゆるくつながれる」居場所の必要性を感じていました。そうした中、「苦手とする場づくりを勉強して自分でも何か出来る事があればやってみたい」と「せやまるタウンカレッジ」を受講。タウンカレッジで出会った人たちやケアプラザの協力もあり、ゆるり会を立ち上げました。

令和元年 2 月より、青木さんが営む喫茶店「喫茶バス通り」で、毎月 1 回ふらっとカフェ「ゆるり会」を開催しています。「ゆるり会」は、支援、相談の場ではなく、そこに集うみんなで作りに上げていく場。「ふらっと立ち寄り気軽に過ごしてほしい。同じような悩みを持つ人たちが、ゆるくつながることで、何かしらヒントが見つければ嬉しい。」という思いで、活動を続けています。

(代表の青木さん)「コロナ禍で数か月お休みをした時期もありましたがズーム開催、少人数でのお申込み制でゆるり会を開催しています。

お申込み制というのは本来の『ゆるり会』の運営方針とは違うように感じましたが、それでも出かけてくださる人がいらっしゃるのならこの方法でしばらくは続けようと思いました。

少人数での読書会、オンラインでの様々なパフォーマンスの発信、セミナーなどを企画できればと思っています。

また、ピア活動(※)を意識して当事者スタッフを増やしたいとの目標もあります。

いずれも身の丈でしか出来ませんが『せやまるタウンカレッジ』の受講があったからこそ、始まった『ゆるり会』です。良い機会を与えてくださり区民として心から感謝しています。」

(※) ピア活動とは・・・

同じ悩みや症状などの問題を抱えている方々、すなわち同じ立場にある当事者同士が、互いの経験・体験を基に語り合い共感し、サポートを行う相互支援の取組をピアサポートと言います。ピアサポーターが実践している活動をピア活動(ピアサポート活動)と呼びます。



チラシ

## 4 協働の「地域づくり大学校」のあゆみ・事業効果



### 事業経緯（あゆみ）

協働の「地域づくり大学校」事業は、平成22年度から25年度（まで「認定NPO法人市民セクターよこはま」が実施していた「よこはま地域づくり大学校」の成果を踏まえ、各区の取組として、24年度から、西区で「西区地域づくり大学校」が、25年度から港南区で「学び舎ひまわり」が生まれました。

西区、港南区での取組を受けて、前の中期4か年計画平成26年～平成29年（2014年～2017年）で「地域の魅力づくりや課題解決の手法を学ぶ場づくり」に全区で取り組むことを目標に掲げ、26年度から「協働の『地域づくり大学校』事業」として事業を開始し、29年度で全区展開しました。

令和元年度からは、区や地域の実情に応じた人材発掘・育成をさらに進めるため、元気な地域づくり推進事業に統合しました。

（参考：事業年表）

#### 平成22年度～25年度

「認定NPO法人市民セクターよこはま」が横浜市市民活動支援センター自主事業として、自治会町内会などで地域活動を行っている人を対象に実施

#### 平成26年度

西区、港南区での取組を受け「協働の『地域づくり大学校』事業」開始

#### 平成29年度

全区展開

#### 各区開始年度

24年度	西区	（※元気な地域づくり推進事業で実施）
25年度	港南区	（※区づくり推進費で実施）
26年度	神奈川区、旭区、金沢区、緑区、戸塚区、泉区、瀬谷区	
27年度	南区、青葉区、都筑区	
28年度	保土ヶ谷区、港北区、栄区	
29年度	鶴見区、中区、磯子区	【18区で実施】
30年度	【18区で実施】	

※24、25年度の泉区まちづくりみらい塾は市民活動団体の自主的な取組。



### 事業効果

地域大卒業生は、「自ら作成した活動プランを実践する」、「自治会町内会で役員を引き受ける」、「地域大で学んだことを地域で実践する」、「地域大の企画・運営にサポーターとして携わる」など、地域大終

了後も活動に取り組んでいます。

また、こういったプログラムを継続的に展開することで、「学んだことを共有できる仲間」が地域の中に増えて活動が進めやすくなるなどの効果も出ています。

### 【効果例】

- ・ 毎年受講している地区があり、開始当初は、講座終了後に地域大の学びを地域に持ち帰っても中々理解してもらえなかったが、毎年受講するうちに「学んだことを共有できる仲間」が地域の中に増え、地域大が「共通言語」となった。継続的なプログラムを展開することで、地域に広がり生まれた。
- ・ 地域大OB会が独自のネットワークや情報を活用することで、企業とのマッチングや新たな講座の展開など、区活センターだけではできない取組を担い、協働のパートナーとして相乗効果を生み出している。





## 5【参考】協働の「地域づくり大学校」の各区取組一覧（令和元年度）

区名	講座名称	実施内容	協働契約等の相手方	事業費	事業実績	
					回数	受講者数 (※1)
鶴見区	鶴見・まちづくりゼミナール	座学やまち歩き、活動事例紹介等を通して、地域活動を活発にするコツや課題解決のヒントを学びあう講座	山路商事株式会社	895,000	5	32
神奈川区	神奈川区地域づくり大学校	区内外の先進事例の見学（バスツアー等）、卒業生による活動紹介等	・神奈川区連合町内会自治会連絡協議会 ・認定NPO法人市民セクターよこはま	1,253,582	6	17
西区	西区地域づくり大学校	講義や地域施設の見学、先輩修了生による活動紹介、チャレンジプラン試行等	認定NPO法人市民セクターよこはま	1,450,000	6	15
中区	中区わが町いきいきゼミナール 「地域の菜園づくり」	ケアプラザの敷地を活用した菜園づくりの実践活動を通して、地域活動の手法を学ぶ場とすると共に活動グループの自立化を目指す	NPO法人 横浜プランナーズネットワーク (協働契約以外の委託契約による。)	507,178	7	13
南区	寺子屋みなみ 「蒔田っ子学援隊」	蒔田っ子学援隊のネットワーク構築と、主体的な活動に必要な知識を習得し、地域へのつながりを深める講座	株式会社 GENプランニング	681,205	4	48
	寺子屋みなみ 「大岡地区こどもまちづくりクラブ」	子どもたちのアイデアを地域活動に活かすことや、大人と子どもと一緒に学び合うことの大切さを学ぶ講座	NPO法人 夢・コミュニティ・ネットワーク	695,388	3	25
港南区	学び含ひまわり	まち歩き、区内活動事例見学及び意見交換、マイプラン作成等	・港南区連合町内会長連絡協議会 ・港南区社会福祉協議会	980,000	5	32
保土ヶ谷区	ほどがや楽考	まち歩きや施設見学、地域で活動している人たちの経験談、グループディスカッション	山路商事株式会社	990,000	6	18
旭区	新あさひみらい塾	防災と見守りをテーマに、東京都大田区及び神奈川区羽沢地区の先行事例の視察・グループワーク等	旭区社会福祉協議会	900,000	6	18
磯子区	いそご地域づくり塾	専門家による講義、地域活動を行っている個人・団体による活動紹介、イベント企画・実施体験	・磯子区社会福祉協議会 ・NPO法人 夢・コミュニティ・ネットワーク	1,310,560	7	22
金沢区	地域づくり塾かなざわ	講師を招いてのグループワーク、個別に希望団体を訪問するフィールドワーク、過去の卒業生による事例紹介	金沢区社会福祉協議会	850,000	3	39
港北区	港北つなぎ塾	情報発信をテーマに、5つの分野でワークショップと相互交流	一般社団法人 地域インターネット新聞社	973,500	3	68
緑区	みどり「ひと・まち」スクール	「夢プラン」を作成することを目的とする、ワークショップや区の歴史やまちづくりの講義等	・緑区市民活動支援センター「みどりーむ」運営委員会 ・緑区社会福祉協議会	1,322,039	7	19
青葉区	みらいづくり大学青葉キャンパス あおば魅力ガイド講座	地域活動の活性化や担い手の育成を目指した、つながりづくりのための、青葉区の魅力と健康を広げる講座	・あおば学校支援ネットワーク ・NPO法人横浜シティガイド協会	1,000,000	7	25
都筑区	つづきくらし研究所	地域資源やまちづくり事例の調査、より良い地域づくりを考える講座（フィールドワーク、ワークショップ等）	NPO法人イシュープラスデザイン	1,870,000	4	10
戸塚区	戸塚区地域づくり大学校	地域の課題解決に取り組むための講座（現場見学、グループワーク等）	・NPO法人くみんネットワークとつか ・戸塚区社会福祉協議会	1,280,000	6	42
栄区	栄区地域づくりキャンパス	居場所づくりのために、仲間づくりやしなやかな組織づくりを学び合いながらヒントを得る講座	株式会社イータウン	911,735	3	21
泉区	泉区まちづくりみらい塾	区内・市内活動事例見学やグループワーク、チャレンジプランの作成等	・泉区まちづくりみらい塾 ・認定NPO法人市民セクターよこはま	1,314,790	6	18
瀬谷区	せやまるタウンカレッジ	「ひとがつながる場づくり」をテーマとした座学、現場訪問、ワーク	・NPO法人れんげ舎 ・瀬谷区社会福祉協議会	999,547 (※2)	6	22

(※1)受講者数は1回でも受講していれば含む。

(※1)受講者数は職員も含む。

(※2)区づくり推進費499,773円を含む。

**協働の「地域づくり大学校」  
～ 修了生の活動事例 ～  
令和3年6月発行**

**【お問合せ】**

**横浜市 市民局 地域活動推進課**

**電話:045-671-3624 Fax:045-664-0734**

**Email:sh-chiikikatsudo@city.yokohama.jp**